

第5分科会 読むことⅡ 豊かに読む（想像力）

ことばを蓄え、ことばを生かす国語教室の創造

～想像力豊かに読む文学的な文章の指導を通して～

1 研究のねらい

延岡市では、宮崎県の研究に基づき、本市の中学生を対象に「読むこと（文学的な文章）」に関するアンケート調査を実施した。また、「全国学力学習状況調査」等の諸検査の結果を分析したところ「読書好きの生徒が多い」という傾向が見られたが、「文章中に意味の分からない言葉が出てきても辞書を引いたり、尋ねたりする生徒が少ない」、「文章に書かれている内容とこれまでに身に付けた知識や体験を関連付けて自分の考えをもつ生徒が少ない」という実態が明らかになった。このことから、本市の生徒は、本は読んでいるものの、文章中の言葉に関心をもって読んだり、想像力豊かに読んだりしていないということが分かった。

そこで本市では、言葉に関心をもって文章を読み、その内容を理解し、自分の考えをもつことができるようにするために、「活用できる語彙を増やすための支援」、「自分の考えをもつための支援」が必要であると考えた。これは、宮崎県の研究テーマ「ことばを蓄え、ことばを生かす国語教室の創造」の観点と同じであり、それに基づいて研究の柱を立てた。研究の柱の一つ目は「文学的な文章における蓄えたい学習用語や蓄えたい語彙をしっかりと押さえ、捉えさせること」、二つ目は「文章を読み、自分の考えをもつための支援をすること」である。そして、取組を行う単元を学年ごとに設定し、同時に県の国語研究部会が集約・整理した「蓄えたい学習用語・蓄えたい語彙」を授業で用いながら研究を進めた。これらの系統的な指導や学習を螺旋的・反復的に行うことで、語彙力が高まり、思考力や想像力がはぐくまれ、国語の能力の基礎を確実に育成することにつながると考えた。

2 研究の内容（実施第1～3学年）

(1) 生徒の意識調査：市内の中学生を対象に、読むこと（文学的な文章）について、12項目のアンケート調査を実施。

■対象 延岡市内の全中学校（16校）1～3年生 各学年1クラスを抽出。学年別に集計。

■時期 第1回目 平成26年7月（実態把握）

第2回目 平成27年1月（授業後の変容分析）

(2) 研究の柱1：文学的な文章における蓄えたい学習用語や蓄えたい語彙をしっかりと押さえ、捉えさせること。

本市では、「蓄えたい学習用語」とは、国語の教科書や指導要領に出ている、国語学習で使う言葉、「蓄えたい語彙」とは社会生活の中で今後活用していくであろう言葉を取り上げることとした。研究では、「豊かに読む（想像力）」力を育てる単元として、1年「少年の日の思い出」、2年「わたしが一番きれいだったとき」、3年「故郷」を取り上げた。

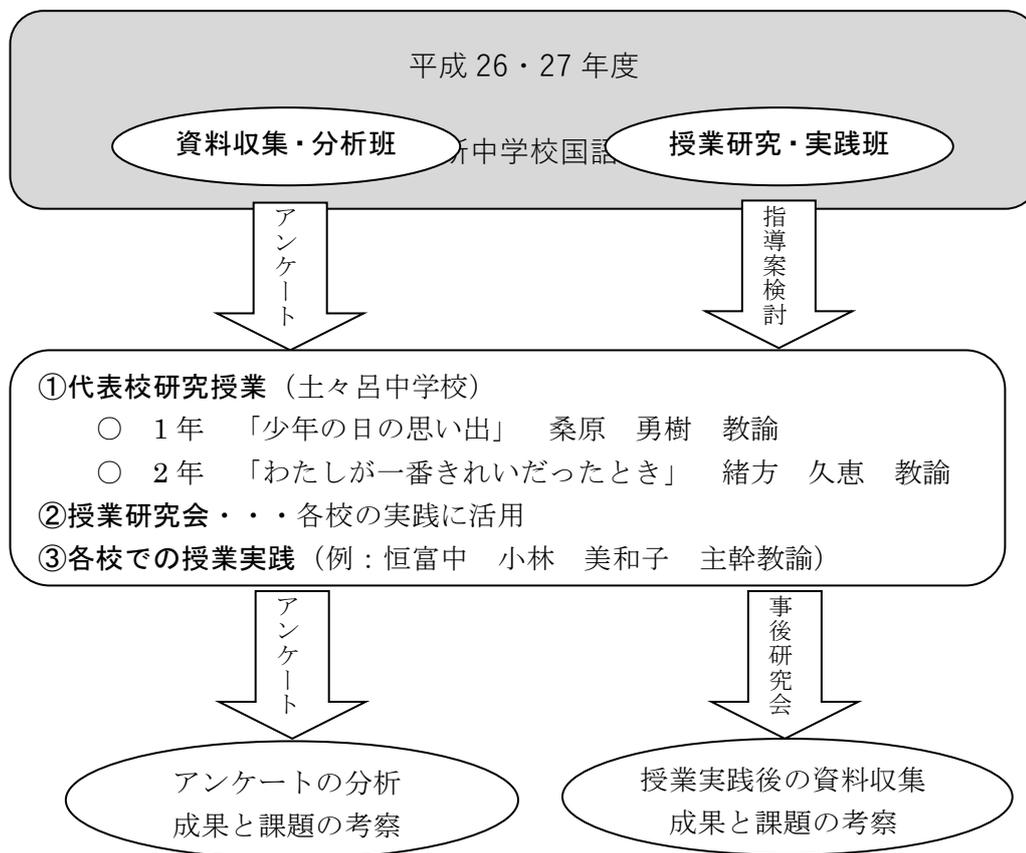
(3) 研究の柱2：自分の考えをもつための支援をすること。

① ワークシートの工夫

○ 吹き出しを用いて登場人物の心情が書きやすいようにする。

- 「蓄えたい語彙」を空欄に補充させる。
- ② 自分の考えを伝えるための工夫
 - 個人→ペア→グループ→全体 など、学習形態の工夫を行う。
 - 発表の型を示し、自分の考えを表現させやすくする。
- ③ 資料の工夫
 - 思考力・想像力を膨らますことができるように、場面を意識した資料を提示する。

(4) 研究の実際



4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 学年があがるにつれて、意味の分からない言葉が出てきたら、辞書を用いて語句を調べる生徒が増えた。(研究の柱1)
- ② 文脈に沿って語句の意味を考えながら、文章を読む生徒が増えた。(研究の柱1)
- ③ 2・3年生では、蓄えた語彙を活用しながら文章を読むことで、作品に対して自分の考えを表現することができる生徒が増えた。(研究の柱2)
- ④ 蓄えたい学習用語や蓄えたい語彙を押さえることによって、場面の展開や登場人物の言動の意味を考えながら文章を的確に読み取り、自分なりの感想を述べる可以增加した。(研究の柱2)

(2) 今後の課題

- ① 授業の中で語彙を調べたり、確認したりする時間の確保が難しい。(研究の柱1)
- ② 想像力豊かに読むために、文章に即して根拠を明確にしなが読み取らせるための手立てが必要である。(研究の柱1)
- ③ 語彙の定着を図るための短文作りや、発表等の活動を取り入れる工夫が必要である。(研究の柱1・2)